

県内に「プロ人材」続々

都市部から地方企業に人材を紹介する内閣府の「プロフェッショナル人材事業」の活用が本県で進んでいる。本県で事業が始まった2015年12月から今年7月末までに21人の採用が決定。チームリーダーなど中核を担う人材として活躍し始め、新規事業の立ち上げを見据える企業もある。企業の人材不足、人口減少が続く中、専門人材の確保や企業の持続的成長につながる手法として注目が高まっている。【関連記事4面】

内閣府の紹介事業

同事業の本県窓口「県プロフェッショナル人材戦略拠点」（盛岡市）によると、岡開発センター（水口正也7月末までに県内企業から寄せられた相談は180件。専門職や部長職、さらに年収1千万円程度の条件を提示して人材確保を目指す企業もある。

同拠点は首都圏、仙台圏、本県の人材紹介会社を通じて47社（地場企業36社、誘致企業11社）に84人を紹介し、このうち13社21人が成約した。13社の業種別は製造業5、情報通信業3、建設業2などだった。このうち組み込みソフト

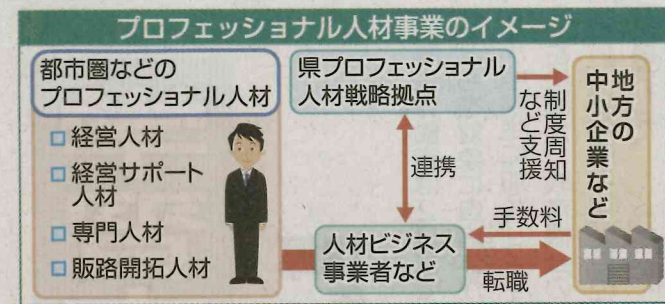
ウエア開発アイシン・コムクルーズ（名古屋市）の盛岡開発センター（水口正也センター長）は今春、宮古市出身で千葉県からUターンした盛合儀則さん（30）を滝沢市菓子Ⅱを採用。盛合さんは、本社で開発した車載用ソフトが仕様通りに作動するか評価する業務を担当する。首都圏の移動系通信会社などで培った経験を生かし、約20人のグループのナンバー3を務める。盛合さんは「車に興味があり、都市部と同様の仕事ができる」と入社を決めた。

都市部から21人入社 企業の成長促す期待も

給与が以前よりアップし、満員電車の通勤ストレスもなく生活面も充実。「経験を生かした仕事で岩手を盛り上げたい」と意欲を示す。同センターは今後1年をめぐりに設計業務も行うことを目指しており、水口センター長は盛合さんに「周囲とのコミュニケーションもしっかりできる。新たな業務の中核人材になってほしい」と期待、同事業によるさらなる人材確保も見据えている。

県プロフェッショナル人材戦略拠点が連携する人材紹介会社は本年度、14社から23社に増加した。事業に対する県内企業の関心も着実に高まっている。

同拠点の斉藤博之マネジャーは「人材が『来ない』でなく『いない』という危機意識が企業に必要だ。人口減などで顧客、従業員が今後大きく減っていく中、会社を伸ばす体質が重要となる。採用したプロ人材によって会社を変えていってほしい」と期待する。



プロフェッショナル人材事業を通じて入社した盛合儀則さん（右）。将来的には新規事業の中核として期待される＝盛岡市、アイシン・コムクルーズ盛岡開発センター

プロフェッショナル人材事業 地方創生や地方企業の活性化を目的に、専門知識を持つ首都圏などの人材の地方登用を進めようとする。内閣府が2015年度から推進。東京を除く道府県に設置する戦略拠点のマネジャーらが地方企業と人材紹介会社をつなぎ、マッチングを支援する。採用決定時に人材紹介会社に手数料を払う「成果報酬型」。今年6月末現在、全国で1509人の採用が成約し▽新規事業立ち上げ▽販路拡大▽生産性向上などに力を発揮。16年9月からは、都市部大企業からの出向、研修などの形で人材交流も行っている。